

※事務事業名に【新規】の表記があるものは、H18年度から新たに開始された事業、【未実施】の表記があるものは、「これから5年間のまちづくりプラン」に位置付けが
あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。
※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。

事務事業コード	131105		あり、H19年度以降に事業開始が予定されている事業。 ※本記載内容は、評価表作成時点（H18年8月）のものであり、その後の状況変化などにより、公表時点において実施時期や事業費等が変更になっている場合があります。										
事務事業名	認知症予防教室事業						担当部局・課	健康福祉部 高年福祉課		評価結果 B 上位施策に対する貢献度はやや高く、効率性を点検した上で継続する。			
事業内容	認知症予防に地域で取り組むことを目指し、地域ふれ愛福祉サロンを担うボランティア等に認知症介護予防教室を実施する。外部講師などにより教室を実施する。						事業開始(予定)年度						
							平成17年度						
							事業終了(予定)年度						
				—									
この事業の上位施策	これから5年間のまちづくりプラン	視点	支え合いでつくる「安全・安心」のまちを実現										
		項目	きめ細かな地域福祉の推進										
		施策	介護予防事業の実施										
	⇒「これから5年間のまちづくりプラン」は、「第4次伊丹市総合計画」の後期5か年(H18～22年度)に計画的に取り組むべき具体的事業等を明らかにした事業実施計画です。 行政評価の実施にあたっては、各事務事業をこの計画体系に沿って整理しています。												
事業の目的	認知症高齢者対策として、認知症予防の知識を習得した指導者を養成することにより、認知症予防施策を広く市民に普及・啓発していくための基礎を固める。また、認知症の人やその家族を地域で支える基盤づくりを行う。						予算費目 (複数の費目にまたがる場合は、主な費目を表示しています。)		(款) 特別会計 (項) (目) (事項)				
事業費等の概算	平成17年度(決算)						平成18年度(予算)						
	事業費	44千円	財源内訳				事業費	302千円	財源内訳				
			国・県補助金等		32千円				国・県補助金等		183千円		
			市 債		—				市 債		—		
			その他(使用料等)		—				その他(使用料等)		58千円		
			一般財源(市税等)		12千円				一般財源(市税等)		61千円		
	投入人員	—	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				投入人員	0.10人	⇒年間を通じてこの事業に投入される人的資源を概算により算出しています。算式で表すと次のようになります。 =担当課職員数×(当該事業の仕事量÷課の全仕事量)				
	人件費	—	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				人件費	857千円	⇒年間1人あたり平均人件費に投入人員をかけて積算したものです。				
経費合計	44千円					経費合計	1,159千円						
活動指標	指標名(単位)	参加者数（人）					計画と実績	年度 区分	H17年度	H18年度			
	意味・算式等	ふれ愛サロン会場数（市内63箇所）×各2名=126名						計画値	126	126			
								実績値	86				